

# 児童生徒の実態把握



道徳科における児童生徒の実態把握について教えてください。

道徳科における児童生徒の実態把握とは、**道徳的価値に根差した問題**を把握することです。専門家会議では、道徳的価値に根差した問題として、以下の4つの問題が例示されています。



## 専門家会議で例示された4つの問題と実態把握例

- 1 **道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題**  
物を大切にしない、ルールを守らない、わがままな児童生徒が多い。
- 2 **道徳的諸価値について理解が不十分または誤解していることから生じる問題**  
相手の気持ちを考えることなく、何かをしてあげることが親切と捉えている児童生徒が多い。自由とは自分の思うままに行動してよいことと捉えている児童生徒が多い。
- 3 **道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とできない自分との葛藤から生じる問題**  
あいさつは大切だと分かっているが、なかなかできない児童生徒が多い。  
いじめはダメだと分かっているが、公正、公平に消極的な態度の児童生徒が多い。
- 4 **複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題**  
友達に間違っていることを正直に伝えた方がよいか、相手のことを考えて黙っていた方がよいか悩み、どのように行動したらよいか判断できない児童生徒が多い。

児童生徒の道徳的価値に根差した問題は、発達段階や生活体験、道徳科以外の教育活動と関わっているため、授業の実施時期によって異なります。学級担任を中心に、日頃の児童生徒との関わりの中で、道徳的価値に根差した問題について、**どのようなことが身に付きつつあり、どのようなことが課題として残されているのか**を把握することが大切です。



### 参考文献

- |   |          |      |
|---|----------|------|
| [1] 道徳教育編集部：道徳教育 2018年 9月号  | p68 - 70 | 明治図書 |
| [2] 平成28年7月22日道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議：「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について（報告） | p6       |      |